

メダンの中のマレーシア

山本博之

今から 2 年前のことになるが、2001 年 11 月 22 日、インドネシア・北スマトラ州メダンの日本人をはじめとする外国人在住者たちが、「インドネシアの全テレビ局がマレーシアに乗っ取られた」と騒いだことがある。

その日、いつものように衛星放送の NHK を見ようとテレビをつけると NHK の様子がどうもおかしい。メダンでは大雨などのために NHK の放送が一時的に乱れることも珍しくなく、いつもの調子でチャンネルをあれこれ替えてみたところ、驚いたことにどのチャンネルでも同じ映像が流れていた。しかも、そこで流されているのはどうやらマレーシアの国王の葬儀の模様らしい。どうしてインドネシアのテレビがマレーシアの国王の葬儀を中継しているのか、しかも全局そろってというのはどういうことか、とみな不思議がった。

メダンでは NHK などの衛星放送を見るためにアストロに加入している人が多いが、アストロが実はマレーシアの会社だったとは誰も知らなかったらしい。マレーシアではこの前日の 11 月 21 日、サラフディン・アブドゥル・アジズ・シャー国王が死去しており、翌 22 日が公休日とされ、葬儀の様子が全国で放映された。マレーシアの会社であるアストロ社は通常の番組を取りやめて葬儀の模様を中継し、このためメダンでは NHK を含む衛星放送全局がマレーシア国王の葬儀中継になってしまったのだ。(もちろん、インドネシア国内の

放送局は通常の放送を行った。)

インドネシアは国土が広いために国内の衛星放送が発達しており、インドネシアの衛星放送会社も当然あるが、メダンではマレーシア人を中心にアストロに加入している外国人が少なくない。メダンにアストロの代理店はないのでペナンの代理店でマレーシア人の名義を借りて申し込み、ペナンから届くチューナーを設置すればアストロが見られるという仕組みになっている。ただし、メダンに赴任する日本人の多くは前任者から住居といっしょにアストロの契約を引き継ぐため、ペナンの代理店と契約を結んでいるという認識がなかったわけだ。そう言われれば NHK の具合が悪くなるとペナンの代理店に連絡していたけれど、それはマレーシアの会社だったからか、とみんなようやく納得した様子だった。

マレーシアと比べると、インドネシアは国境の壁をかなり高くして、それを越えて人や物や情報が行き来するのをかなり制限しているとの印象を強く受ける。そんな中でも、メダンにいと、アストロに限らず、ペナンとの間だけは国境の壁がやや低いように感じられる。インドネシア居住者が出国するときに支払う出国税のフィスカルは 1 人当たり 100 万ルピア(約 1 万 5000 円)とかなり高額だが、メダン市民がペナンに行く場合はフィスカルが免除される。メダンから週末に遊びや買い物に行くのなら、同じマレーシアでもクアラルンプ

ールよりペナンの方がずっと割安になる。そんなわけでメダンの人はしばしばペナンを訪れているようだ。メダンの華人社会は福建語の世界で、そんなところもペナンとの共通性を感じさせる。

華人社会について見てみると、19世紀末にスマトラに進出したオランダが東海岸でプランテーションを拓いたとき、シンガポールの華人有力者チャン・ピーシーがメダンとペナンにそれぞれ会社をつくり、それを通じて労働者の調達などを行っている。メダンで会社をまかされたのが、チャン・ピーシーの甥に当たるチョン・ヨンヒアンとチョン・アーフィの兄弟だった。

チョン・アーフィは1860年ごろ中国広東省に生まれ、1870年代末にシンガポール経由でスマトラ島東海岸のデリに渡ってきた人物である。デリ地区のプランテーションに目をつけ、デリのスルタンやオランダ人プランテーション経営者と良好な関係を築き、1911年には兄のヨンヒアンから「マヨール」の称号を引き継ぎ、この地域の華人社会を統括する地位を得た。1921年に亡くなるまでに、スマトラ島からペナン、シンガポール、さらには香港、中国、オランダなどに至る広い影響力を持つに至った。

チョン・アーフィの名前は、メダンでは「チョン・アーフィの館」としてよく知られている。これは1900年にチョン・アーフィが建てた木製の住居で、今ではスマトラ遺産協会の保存努力によってメダン市内の観光名所の1つとなり、Tシャツの素材などにもなっている。

チョン・アーフィの名前は、メダンの日本国総領事館から西に数百メートルいったところにある

橋の名前としても知られている。この橋はもともとチョン・アーフィらによって1916年に建設されたもので、スマトラ遺産協会の支援で2001年4月に補修されたものだ。補修の際に四隅の柱に各言語で橋の由来を記したという話を聞いたので見に行ってみると、確かにジャワイ綴りマレー語、オランダ語、中国語の3種類で書かれていた。ジャワイはかなり悪筆なので判読に手間取ったが、いずれにしろ、チョン・アーフィたちが1911年に亡くなった兄のヨンヒアンを偲んで建設した橋であると書いてある。(オランダ語については不明だが、固有名詞や年号の登場の具合から言ってほぼ同内容のようだ。)以前は建てた人物の名前を取ってチョン・アーフィ橋と呼ばれたりもしたようだが、今ではチョン・ヨンヒアン橋と呼ぶべきだとの声も高いらしい。

これらの「チョン・アーフィの館」やチョン・ヨンヒアン橋の修復・保全を手がけているのが、メダンで歴史遺産の保護を中心に活動を行っているスマトラ遺産協会(BWS)である。メダン市内に事務所を構えているBWSは、世話好きなハスティ・タレカット事務局長をはじめとするスタッフが親切で、また、小規模ながらも市内の図書館に決して見劣りしない歴史関係の蔵書を備えた図書室もあり、メダンの歴史などについてちょっと調べ物をするのに便利なところだ。BWSの活動についてハスティ・タレカット事務局長が紹介文を書いたもので以下に紹介したい。

スマトラ遺産協会 (Badan Warisan Sumatera)

ハスティ・タレカット¹(西芳実訳)

1. 設立とこれまでの活動

1994年までの10年間、私は記者業に身を置いていたのですが、そこでバンドン文化遺産保護協会 (Paguyuban Pelestarian Budaya Bandung) という NGO のニューズレターを運営するよう頼まれました。報酬はいかほどでもなかったのですが、とても興味深く、ほどなく私はその活動に積極的に関わるようになりました。

1997年8月に私はメダンに移ることになったので、そこで歴史遺産保護の団体を探しました。そうした組織はメダンにはまだないようでしたので、私はメダンの有力者何人かに一緒に始めないかと持ちかけました。メダンでそうした組織が活発になるか悲観的な考えの人もいましたが、私の考えでは、メダン市民およそ200万人のなかに10人や20人は自分たちの街やその歴史遺産に関心を持つものが必ずやいるはずでした。歴史遺産保護組織 (heritage society) を立ち上げるには何人かのスタッフがいればよかったです。彼らは民間部門や高等教育機関、専門家といったさまざまなバックグラウンドを持っている必要がありました。8ヵ月かかってようやく7人がスマトラ遺産協会設立委員会に集まりました。

¹ 連絡先 : Hasti Tarekat, Jl. Sei Selayang No.39, Medan, Indonesia (Tel: +62-61-8213151, Fax: +62-61-8214925, E-mail: bwsmedan@indosat.net.id)。

BWSは1998年4月29日に発足しましたが、当時はボランティア・スタッフ1名だけでした。発起人かつ事務局長として私がBWSの発展と運営に責任を持ち、組織が単に存続するだけでなく、広く一般の人びとにBWSの目的と使命を伝えていくことになりました。私たちはBWSがプロフェッショナルに運営され、また、長期にわたって存続できるように1つのシステムを作りました。私たちは政府、市民、マス・メディアや高等教育機関と歩調を合わせて活動しています。また、資金確保や歴史遺産保護分野における人材育成の機会をつくるため、あらゆるレベルにおいてネットワークを構築しています。地元の資源を動員することで、外部からの資金に依存せずにBWSが活動をまかなうことが可能になります。常勤スタッフおよびボランティア・スタッフには歴史遺産分野について研修し、研鑽をつむ機会があります。BWSのニューズレター『ワリサン』²は毎月欠かさず発行され、会員や支持者に配布されています。BWSはBBCや日本のラジオ、オランダの全国紙などの海外マス・メディアにも取り上げられました。4年半が経ち、今、BWSは5名の常勤スタッフによって運営され、約300名の会員³を有し、ボランティア・スタッフによって支

² [訳注]A4判4ページ。最近の記事では「マンダインの足跡」(2002年11月号)、「ニアスの伝統的菓草栽培の方法と利用法ワークショップ」(2002年12月号)、「メダンの近代建築のデータ化」(2003年1月)など。現在の発行部数は800部。

³ [訳注]会員種別と年会費はそれぞれ次の通り。一般会員(インドネシア国内在住者6万ルピア、海外在住者20米ドル)、終身会員(国内500万ルピア、海外

えられています。

その名のとおりに、BWS はスマトラ全域に目的と使命を広め、様々な州で遺産保護組織が結成されるよう支援しています。現在までに 14 の組織が設立され、「歴史遺産保護のためのスマトラ・ネットワーク」に参加しています。このネットワークは年に一度、スマトラの各都市で会合を開いています。2002 年には、今年 1 月から始まった「2003 年インドネシア遺産年⁴」を迎えるにあたり、同ネットワークの全会員組織の協力によってスマトラ歴史遺産周遊展をスマトラ各地で開催しました。

2.活動実績

- ◇チョン・ヨンヒアン橋(1916 年建設)の補修。ジャウィ、オランダ語、中国語による解説を付す。
- ◇タマン・スリ・デリ(メダン)の改築デザイン。
- ◇メダン旧市庁舎の改修にあたって費用と専門家を調達。
- ◇メダンにおける近代建築(600 件、1860 年代～1960 年代)の資料作成。東京大学と協力。
- ◇「メダン歴史遺産シリーズ」発行。第一号は「カンポン・マドラス:インド人コミュニティの情景」。
- ◇カンポン・マドラスで文化祭を実施。
- ◇『メダン、ある街の物語』(Medan, Beeld van een Stad)を翻訳出版。
- ◇年に一度のメダン歴史遺産週間を開催。メダ

600 米ドル)、優待会員(国内 2 万ルピア、海外 5 米ドル)、協力会員(国内 8 万ルピア、海外 30 米ドル)、賛助会員(国内 100 万ルピア、海外 120 米ドル)。

⁴ Tahun Pusaka Indonesia 2003。詳しくは www.indonesiapusaka.org などを参照。

ン市当局と北スマトラ建築協会の協力により、メダンにおける歴史的建造物の所有者・使用者に「歴史遺産保全賞」を授与。

- ◇歴史遺産保護の認識を育成するため、高校生を対象に Program Heritage Goes to Schools を、一般市民を対象に Program Heritage Goes to Malls を実施。
- ◇高等教育機関やホテルなどで展覧会、ワークショップ、セミナーを実施。

3.交流

加盟メンバー

- Jaringan Pelestari Pusaka Indonesia (JPPI)
 - Asia West Pacific Network for Urban Conservation (AWPNUC)
 - modern Asia Architecture Network (mAAN).
- 人員交流
- Penang Heritage Trust (マレーシア)
 - AusHeritage (オーストラリア)
 - Association of Dutch Friends for Sumatra Heritage Trust, ADFSHT (オランダ)
 - Netherlands Management Cooperation Program, NMCP (オランダ)
 - Urban Redevelopment Authority, URA (シンガポール)
 - the Conservation Corps, Newfoundland (カナダ)
 - the Asia Community Trust (日本)
 - Japan NGO Center for International Cooperation, JANIC (日本)